

築地 美和子 (川崎医科大学)

【留学先】Stanford University Medical Center

【テーマ】冠動脈疾患の評価における心エコー図と MRI の比較検討

【経過報告書】

2003 年 9 月より米国カリフォルニア州にありますスタンフォード大学循環器内科に留学しております。Cardiac MRI Laboratory に所属し、主に心筋 Viability についての研究に従事しております。臨床研究を中心に行っておりますので、大学の倫理委員会への申請や患者あるいはボランティアへのインフォームドコンセントなどに直接携わることができ、多くの貴重な経験を積むことができています。また、循環器だけでも Clinical echocardiogram, Cardiomyopathy, Catheter case, Vascular medicine lecture series などの分野に分かれた Lunch conference がほぼ毎日あり、Lecture series では、他大学から世界的にも著名な先生が招かれます。非常にカジュアルな雰囲気の中で時に白熱する活発な discussion が行われ、非常に興味深く楽しく参加させて頂いています。貴学会から貴重な助成を頂き、このような恵まれた環境で臨床研究に従事できますことを深く感謝し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。(平成 16 年 4 月記)

【帰国報告書】

私は 2003 年 9 月から、2005 年 5 月までの約 2 年間、米国 California 州の Stanford 大学(心臓血管内科、心臓 MRI 部門)に留学させて頂きました。Stanford は、米国西海岸の California 州に位置し、San Francisco から南へ高速道路で約 40 分程度のところにあります。治安が非常に良いことで知られ、また気候に大変恵まれた地域です。緑も多く、リスやアライグマ、時にスカンクに大学構内で遭遇するのには驚かされました。

Stanford 大学は、1891 年に開設された私立大学であり、大陸横断鉄道で成功を収め、California 州知事、上院議員も歴任した Leland Stanford 氏が、若くして病死した息子を悼んで、彼の持つ農場の 1 角に創設したのが始まりです。学問、学部の境界を越えた共同研究の場やスポンサー付きの研究を受託する機関を容易に設立できる学風は、Stanford 大学の最大の特徴であり、民間企業の出資で大規模な研究センターが設立されることも、分野を問わず日常的なことのようです。大学の研究費と施設を使って作った技術をもとに、教員が優秀な学生を引き連れて起業することはよくあることで、1939 年当時学生だったヒューレットとパッカードが大学近くの住宅街のガレージでベンチャー企業ヒューレットパッカードを設立し、現在のシリコンバレーの基になったサクセスストーリーは皆さんも御存知ではないでしょうか。また、Stanford 大学は、The Stanford Management Company (SMC) という組織によって運営されている大学であり、SMC は住宅、デパート、ショッピングセンター、高級ホテル、クリニックセンター、独自の

郵便、通信、消防、警察システムを有する巨大学園都市を運営し、シリコンバレーの優良企業の1つになっています。非常に広大な土地に多くの施設が建てられているため、学内移動用の無料循環バスが常時運行しています。

私はStanford大学病院の心臓血管内科に所属し、臨床および研究Staffのためのカンファレンスにまず参加させて頂きました。Echo conference, Vascular Medicine Lecture Series, Vascular Biology Seminar, Cardiomyopathy conference, Case conference といったカンファレンスが昼から約1時間、ほぼ毎日開かれ、Stanford あるいは他大学の著明な先生方の講義や Stanford で行われている研究の最新の結果報告などを聞くことができ、大変貴重な機会でありました。また、Research fellow として心臓 MRI の研究に従事させて頂きましたが、留学に際して、Stanford 大学でしか出来ない最先端の研究だけに携わるより、帰国後も生かせる、あるいは続けられる研究をしたいと考え、臨床研究を始めました。米国に来て最初の仕事が、臨床研究の対象となる患者さんに直接電話をかけ、ボランティアとして研究に参加してくれるようお願いすることでした。膨大な患者リストから研究の対象となる疾患の患者さんを選び出した後、以前の心エコー図、カルテなどを見直し、更に外来主治医に連絡をとり許可を頂いた上で患者さんに電話をかける毎日でした。留学当初の私の拙い英語でボランティアを集めることは、一苦勞でしたが大変貴重な経験となりました。その後、重症の冠動脈疾患患者に対象を絞り研究を続け、その成果を今春 American College of Cardiology 54th Annual Scientific Session の Young Investigators Awards Competition にて発表させて頂くことが出来ました。(Peri-infarct Ischemia Determined by Comprehensive MR Evaluation of Myocardial Viability and Stress Perfusion Predicts Future Cardiovascular Events in Patients with Severe Ischemic Cardiomyopathy. J Am Coll Cardiol 2005; 45(3): Suppl A 446A)

また、この2年間米国で生活する中で、米国人だけでなく、イタリア、イスラエル、フィリピン、韓国など異国の多くの友人も得ることが出来ました。他国の文化、生活、宗教、思想に直接触れることができ、一生涯の財産となる経験が出来ました。

最後になりましたがこの貴重な留学に際しまして、心エコー図学会から御助成を頂きましたことを心より深謝致しております。